

熊本県指定史跡

玉名の遺跡
シリーズ 23

きょうづか おおつかこふんぐん

経塚・大塚古墳群



【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

TEL:0968-75-1136

bunka@city.tamana.lg.jp

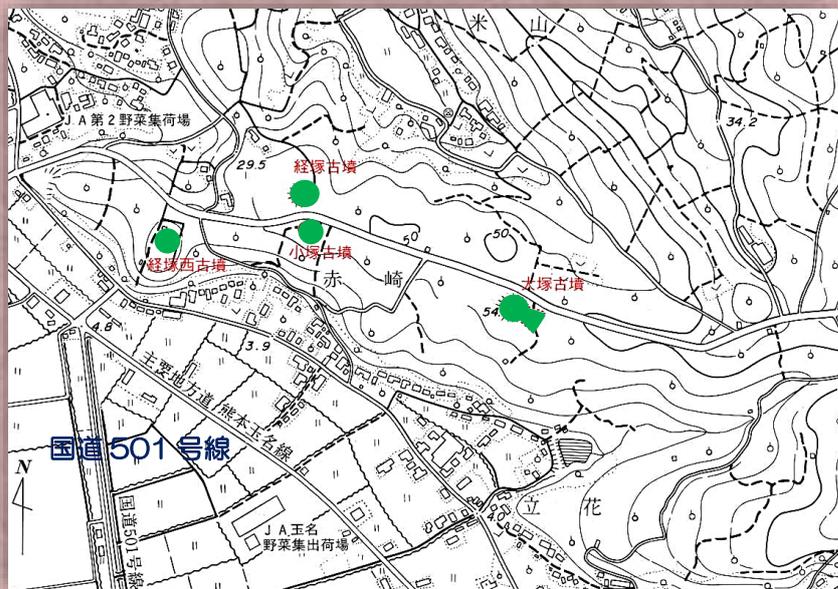


有明海

近世以降の干拓地

玉名市天水町に所在し、菊池川下流の左岸、突出した丘陵上（標高約 50m）に位置しています。当時は丘陵の崖下まで有明海が入り込んでいたと考えられます。大塚古墳を中心とした 4 基の古墳が集中しており、これらは有明海からの眺めを意識したような位置にあります。4 世紀～5 世紀にかけて築造されており、この 4 基以外にも周辺には古墳が点在していたと考えられますが、開墾などによって消滅しているものもあります。大塚古墳は前方後円墳であることが判明し、菊池川下流に位置することから有明海沿岸の交易も担った有力な首長であったと考えられます。

古墳群の位置（東側上空から）



古墳群の位置図（玉名市天水町部田見 1213-1 一带）



古墳群の分布状況（西から）



大塚古墳の石棺



図書館開館日は見学可

天水町公民館内の展示コーナー

経塚古墳出土の鉄剣や鏡のレプリカなどを展示



常時見学可

天水町公民館（体育館階段下）の石棺展示状況

大塚古墳出土の舟形石棺を復元して展示

■大塚古墳

— 菊池川下流域最大級の前方後円墳



大塚古墳の現況（西より後円部をみる）



大塚古墳の航空写真



舟形石棺
(修復後)



▲割られた舟形石棺片に
付着している鉄刀片



主体部の鉄斧や鉄鍬



箱式石棺出土状況



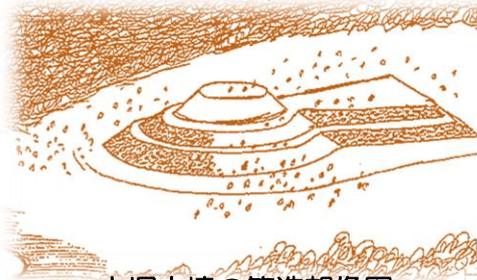
箱式石棺出土



葺石出土



くびれ部の葺石出土状況



大塚古墳の築造想像図

従来は円墳とされてきましたが、平成11年度の発掘調査によって、くびれ部分の葺石が確認され、墳長90mに近い前方後円墳と判明しました。4世紀中頃の築造と考えられ、主体部は舟形石棺で、破壊されていましたが、もう1基が存在することもわかっています。さらに墳丘には箱式石棺が4基が埋葬されており、過去には内行花文鏡も出土しています。主体部には鉄器が残存していました

大塚古墳は全面発掘されていませんが、主体部以外にも土壇墓が10基以上確認され、箱式石棺も4基以上あるとみられ、周辺埋葬墓を複数もつ古墳としても珍しいです。



大塚古墳出土の内行花文鏡

■ 経塚古墳

— 鉄剣を持ち眠っていた首長



県下最大規模の円墳

玉名地域は「舟形石棺製作地」とされていますが、この経塚石棺は特に古いものです。その特徴として、蓋や縄掛突起が大きく、蓋には簡易的な方形区画の加飾がみられます。これは装飾古墳における線刻などの類型として考えられています。



阿蘇溶結凝灰岩製の石棺

遺物の展示施設について
副葬品の実物は市博物館こころピアに、レプリカと壺型埴輪等は天水公民館に展示中です。

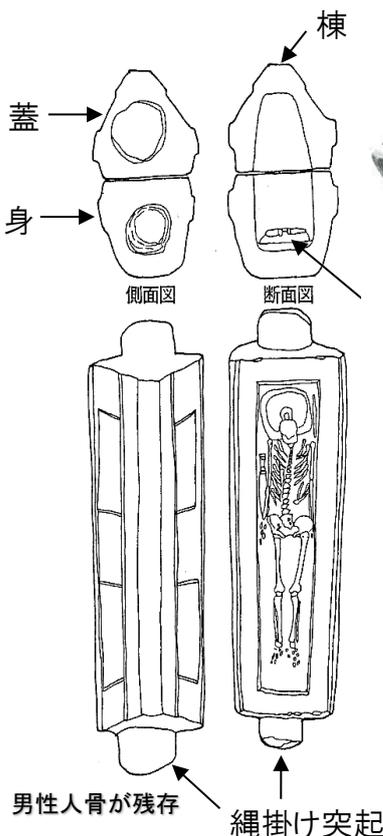


石棺内人骨の出土状況

この古墳は、4世紀後半の築造と考えられ、現状で直径約50m、高さ約7mの円墳とされていますが、以前から前方後円墳の可能性も指摘されています。

ミカン畑造成中に石棺が出土したことで発見され、発掘調査が昭和42年に玉名女子高校の社会部によって行われています。この調査で舟形石棺の内部から男性の全身骨格と共に珠文帯鏡・鉄剣2振・碧玉製管玉が出土しています。このように盗掘を受けず、石棺内の副葬品が残っているのは大変珍しいものです。中でも鉄剣は、鞘に組み紐が編まれた状態で残存しており、全国的に大変貴重な例です。

平成28年の熊本地震によって、石棺が破損しましたがその後修復を行っています。現在は、覆屋にある小窓から石棺の見学ができます。



壺形埴輪



碧玉製管玉

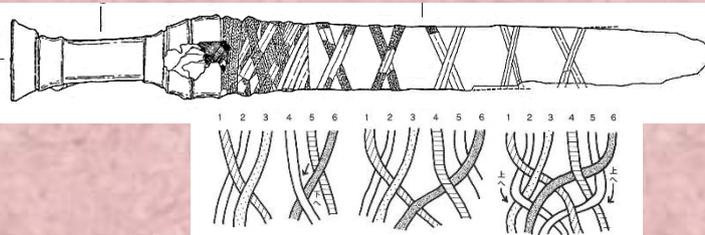


珠文帯鏡



石棺内出土の外装付き短剣

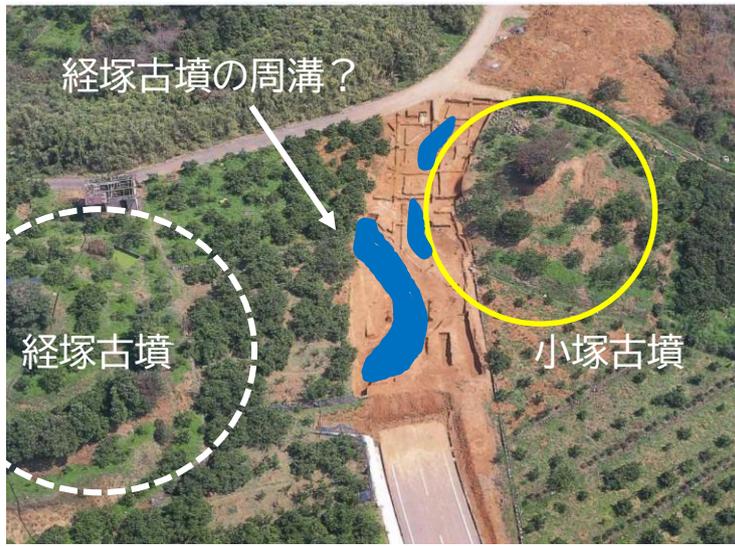
■ 鉄剣外装に残る組み紐を分析！ ■



細かく編んだ繊維を2本にし、それを6本使用して二列の三つ組状態で鞘に巻いてあります。この組紐は現在の真田紐に似ています。

■小塚古墳

— 発掘調査でわかった周溝のなぞ



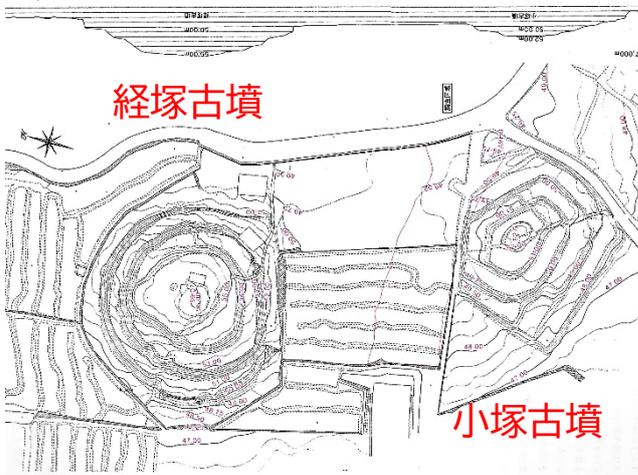
小塚古墳の発掘現況（北側が経塚古墳）



① (約1/3)



小塚古墳の発掘調査で出土した壺型埴輪と円筒埴輪



小塚古墳と経塚古墳の測量図



発掘調査の結果、小塚古墳の周溝からは壺形埴輪のみで、円筒埴輪が出土した溝は経塚古墳に伴う周溝ではないかと推定されています。

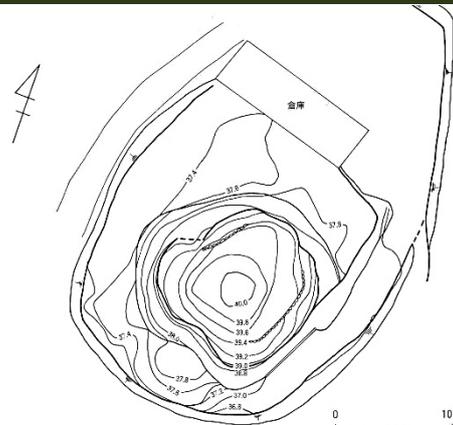
平成 8~9 年度に実施された道路建設に伴う発掘調査の結果、古墳の周溝が検出され、4 世紀末頃に築造された直径約 33m の円墳と考えられています。主体部は未調査のため不明ですが、墳頂に箱式石棺の一部とみられる石材が残っています。検出された周溝は大きく 2 条にわかれ、壺型埴輪や円筒埴輪が出土していますが、出土状況に違いがあることから、性格が異なるようです。

■経塚西古墳

— 古墳群最後の円墳か



経塚西古墳の現況



経塚西古墳の測量図

時期	地域			
	玉名	信明	天水	市外
4世紀	山下古墳	経塚古墳	大塚古墳 経塚古墳 小塚古墳	
5世紀	依左山古墳 城ヶ辻古墳群 小路古墳 福前山古墳	并耐天古墳	老原双子塚古墳 江田船山古墳	
6世紀	大塚古墳 馬出古墳	石貫ナギノ横穴群 石貫穴観音横穴	千ブツ古墳	
7世紀	永安寺東古墳 永安寺西古墳			

玉名の主要古墳変遷図

現在の状況から、4 世紀末から 5 世紀初頭に築造された円墳と考えられていますが、本格的な発掘調査は行われていないため詳細は不明です。墳丘規模は、現況直径約 26 m を測り、墳頂部に安山岩の板石が散乱していたことから、主体部は箱式石棺と想定されています。これら 4 基の古墳群は、舟形石棺や出土した壺型埴輪等の形式から、年代が推定されており、おおむね大塚古墳→経塚古墳→小塚古墳→経塚西古墳へと変遷し舟形石棺から箱式石棺へ、墳丘も小型化していったと考えられています。